

活用事例	27 昼休みに地震が発生し負傷者が出た場合の避難・搬送訓練 【特色】ブラインド方式、椅子や担架を利用した負傷者搬送訓練		
学校名	萩市立むつみ中学校		
日時	平成25年3月19日（火） 昼休み～5校時		
場所	運動場 及び ロビー	参加者	生徒、教職員及びスクールガード・リーダー

## 1 訓練のねらい

- (1) ブラインド方式で実施し、昼休みに地震が発生した場合に、どこにいても地震の揺れから身を守る場所を瞬時に見つけ、その後、指示した場所に落ち着いて避難できるか検証する。
- (2) けがをした生徒を設定し、助け合って避難することを検証する。
- (3) 危険予測学習（KYT）を実施し、本時の自分の様子も振り返ることで、自分の命は自分で守る意識を付けさせる。

## 2 訓練の概要

< 緊急地震速報の受信を想定して、昼休みに放送で全校に地震の発生を連絡する。 >

- (1) 教職員の配置 : 校内に分散し生徒の様子を観察し、生徒と共に避難行動をとる。



- (2) 安全確保 : 机等で身を守る。廊下や階段、体育館等では安全な場所で身を守る。

「訓練です。緊急地震速報を受信しました。安全を確保してください。」



「揺れがおさまりました。運動場へ避難を開始してください。」

(3) 避難開始 : けが人役の生徒を指名し、周りの生徒が協力して、イスや担架を利用して避難する。

(4) 点呼 : 避難場所(運動場)で生徒を整列させ、行方不明者及び負傷の有無・状況を確認した上で校長に報告する。

(5) 危険予測学習(KYT)

ロビーに移動後、全校でKYTを実施する。

具体的な絵(街中、教室、海岸付近)を提示し、強い地震が発生した場合の危険箇所や安全な行動について考えさせる。



(6) 指導講評(校長、スクールガード・リーダー)

本日の訓練時の安全確保状況や避難状況について、指導講評を行う。

### 3 訓練の成果と課題

#### 【成果】

- ◇ 教室で授業中に地震が発生するとは限らないため、生徒が分散している昼休みに実施したことは、生徒の意識付けだけでなく、教職員の訓練にも有効であった。
- ◇ ブラインド方式としたため、突然の放送で驚いた生徒も見られたが、混乱もなく安全確保を試み、自分の身を守ることを検証することができた。
- ◇ けが人役の生徒を指名し、担架やイスを使って運び出す訓練は大変良かった。
- ◇ 放送の指示に従って、教職員と生徒と一緒に避難行動をとることができた。
- ◇ 危険予測学習(KYT)もあわせて実施することは効果的である。地震等の災害が発生したとき、自分の身は自分で守ることや危険を察知する必要性を再確認することができた。
- ◇ 外部指導者(スクールガード・リーダー)の方からも具体的な指導を受けることができた。

#### 【課題】

- ◆ 教職員がいない状況下でも安全確保が確実にできるように、繰り返し訓練を実施する必要がある。
- ◆ 机等の身を守るものがない場所での安全確保の仕方を徹底する必要がある。
- ◆ 教職員の指示・誘導訓練も兼ねているので、今後とも外部指導者に気になるところを指摘していただけるとよい。
- ◆ 生徒には安全な避難を第一に考えることを徹底するが、今回のように担架やイス等でけがをした生徒を運搬する訓練が今後も必要だと考える。
- ◆ 逃げ遅れた生徒を捜索する教員の役割分担を設定する必要がある。
- ◆ 放送が使えない状況を考えて、次回はハンドスピーカーで指示を伝達する訓練を行う。